

演題  
17

## 高血圧新患者に対するアジルサルタンの使用経験

発表者 佐々木 聡 (秋田県 東成瀬国民健康保険診療所)  
共同研究者 富田 洋子、高橋 イク子

### 本態性高血圧における第一選択薬としてのアジルサルタンの降圧効果に関する検討

東成瀬村国保診療所

佐々木 聡、富田 洋子、高橋 イク子

2014.10.11 第54回全国国保地域医療学会

本態性高血圧症における第一選択薬としてのアジルサルタンの降圧効果について検討したので報告する。

### 対象

本態性高血圧症と診断され、第一選択薬としてアジルサルタン20mg/day投与を12週間受けた高血圧治療歴のない患者

男性 4名、女性 5名

平均年齢 61.2歳(45歳～70歳)

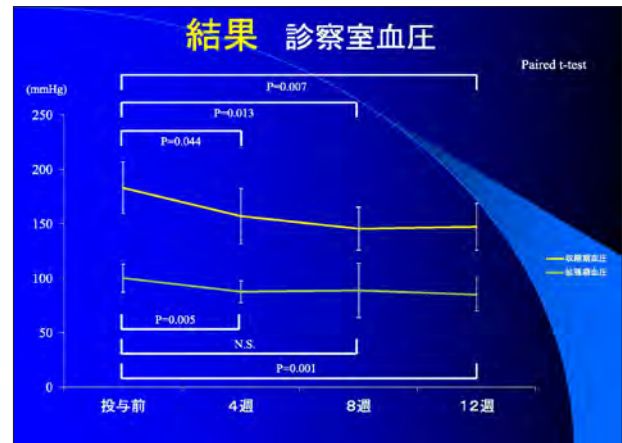
DM, CVD, CKDの既往:なし

対象は本態性高血圧症と診断され、第一選択薬としてアジルサルタン一日20mgの投与を12週間受けた高血圧治療歴のない患者で、男性4名、女性5名、平均年齢61.2歳であった。糖尿病、心血管障害、CKDの既往がある患者はいなかった。

### 評価項目

1. 投与後4, 8, 12週時点での診察室血圧
2. 高血圧治療ガイドライン2014  
(JSH2014)記載の降圧目標達成の可否
3. 12週経過後の降圧剤追加投与の有無

評価項目は投与後4、8、12週間時点での診察室血圧、高血圧治療ガイドライン2014記載の降圧目標達成の可否、12週経過時点で降圧目標を達成できなかった症例に対しての他の降圧剤追加投与の有無とした。



結果、診察室血圧は投与後8週時点の拡張期血圧を除いて、投与前に比して有意な降圧が認められた。

### 結果 JSH2014降圧目標達成例

- 投与開始後4週時点; 2例
- 投与開始後8週時点; 3例
- 投与開始後12週時点; 3例

JSH2014の降圧目標を達成できたのは投与後4週時点で2例、8週、12週時点で3例にとどまっていた。

**結果** 追加投与した降圧剤

カルシウム拮抗薬(CCB): 7例

CCB+利尿剤: 1例

3例でアジルサルタン増量

降圧目標を達成できなかった症例では12週経過後に全例で他の降圧剤を追加投与しており、内訳はカルシウム拮抗薬が7例、カルシウム拮抗薬と利尿剤を追加した例が1例であった。アジルサルタンを40mgに増量した例が3例であった。

**考察**

**JSH2014における降圧剤の選択**

第一選択薬:  
Ca拮抗薬(CCB)、ARB、ACE阻害薬、利尿薬の中から選択する。

2剤併用する場合はARB or ACE+CCB、ARB or ACE+利尿薬、CCB+利尿薬が推奨される。

**考察**

JSH2014においては降圧薬選択の際、第一選択薬はカルシウム拮抗薬、アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、少量の利尿薬の中から選択するとしている。降圧不十分な例では2剤併用の組み合わせとして、上記の組み合わせを推奨している。さらに降圧を要する場合は3剤を併用したうえで $\alpha$ 、 $\beta$ 遮断薬、レニン阻害薬など

の追加を考慮するとしている。

**アジルサルタンの降圧効果**

水谷(2013):  
収縮期血圧 143±4mmHg→136±5mmHg  
拡張期血圧 87±2mmHg→83±4mmHg

時末(2013):  
収縮期血圧 137.3±19.1mmHg→128.3±14.8mmHg  
拡張期血圧 74.8±11.0mmHg→71.4±7.9mmHg

平光ら(2013):  
収縮期血圧 139.6±3.9mmHg→131.5±6.1mmHg  
拡張期血圧 84.2±2.3mmHg→79.7±4.6mmHg

大西ら(2012):  
オルメサルタンからの切り替え例で有意な降圧あり

アジルサルタンの単剤投与における降圧効果については、単剤で有意な降圧が得られたとする報告が散見される。さらに既存のARBで降圧不十分な例でも有意な降圧が認められたとする報告もあるが、JSH2014では各ARB間での降圧効果に関する記述はない。

**JSH2014における降圧目標**

	診察室血圧	家庭血圧
若年、中年、前期高齢者	140/90mmHg未満	135/85mmHg未満
後期高齢者	150/90mmHg未満 (忍容性があれば140/90mmHg未満)	145/85mmHg未満 (忍容性があれば135/85mmHg未満)
糖尿病患者	130/80mmHg未満	125/75mmHg未満
CKD患者	130/80mmHg未満	125/75mmHg未満
脳血管、冠動脈疾患患者	140/90mmHg未満	135/85mmHg未満

今回の検討においては後期高齢者、糖尿病、CKD患者は含まれず、降圧目標をJSH2014に則り140/90mmHg未満に設定した。家庭血圧が測定可能な患者では測定を励行していただき、12週経過後の血圧管理に利用した。降圧剤投与中、家庭血圧は比較的良好であるが診察室血圧が高値を示す例が多く、降圧剤の調節に悩むことが多いがアジルサルタンに拘泥せず各降圧剤の特性を把握し臓器保護、各種イベントの発生抑制に向けて行きたいと考える。

## まとめ

- 本態性高血圧患者に対する第一選択薬としてのアジルサルタンの降圧効果について検討した。
- アジルサルタン単剤で有意な降圧効果が認められたが、JSH2014の降圧目標を果たせない症例が多かった。

### まとめ

本態性高血圧患者に対する第一選択薬としてのアジルサルタンの降圧効果について検討した。アジルサルタン単剤で有意な降圧効果が認められたが、JSH2014の降圧目標を果たせない症例が多かった。